３　「かごしま新特産品コンテスト」の取り組み

商業科　吉福　知明

１　はじめに

商品開発の授業を進める中で，今何が必要かを考えました。コロナ禍で抱えるストレスを解消するには癒やしが必要。そうした思いから生まれた串蜜バームの取り組みについて報告します。

２　取り組みの内容

（１）商品開発を考える上で，まずは身近な地域の事を調べてみることにしました。

・各地域の観光・イベント・企業等をまとめて発表し合う。

（２）今の状況から何があったら良いかアイデアを出し合う。

・癒やし→匂い→アロマ→アロマキャンドル・アロマストーン・ディフューザー

（３）ボタニカルファクトリーでアロマ学習

・オリジナルアロマ作りに挑戦→バーム作りに決定

（４）ＰＲ活動

・チラシ作り・ＰＲ動画

（５）かごしま新特産品コンテストに応募

・当日は代表者２名で参加

３　おわりに

かごしま新特産品コンテストにはじめて参加してみて，商品に対する思いの違いを感じました。学習のためとはいえ，もっと真摯に向き合って研究を重ね商品化し，ＰＲ活動についても十分作戦を練って，妥協せずに良い物を作らなければならないと思いました。

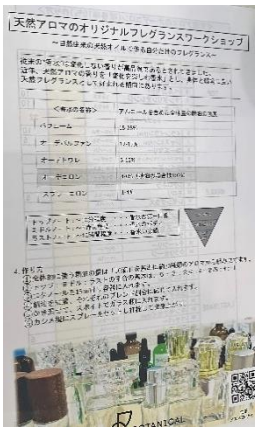
かごしま新得産品コンテストで結果は残せませんでしたが，良い経験となりました。

ＰＲ活動で作成し，応募した「かごしま弁スマホ動画コンテスト」で入賞することができたのは形として残すことができたのでチャレンジしがいがありました。

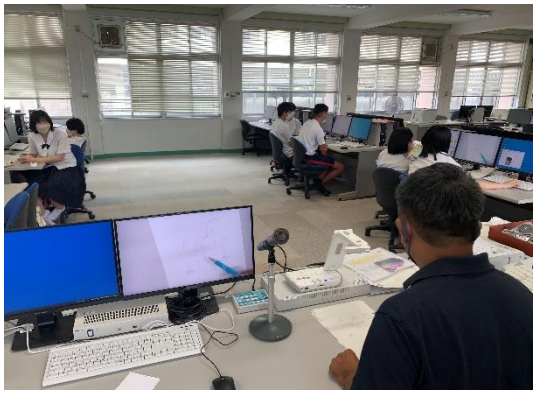
最後に，今回のチャレンジに多くの方々が協力していただいたことに感謝しつつ，目標となる物を見つけてチャレンジさせ，おすみつきをもらって次につなげる取り組みをしていきたい。

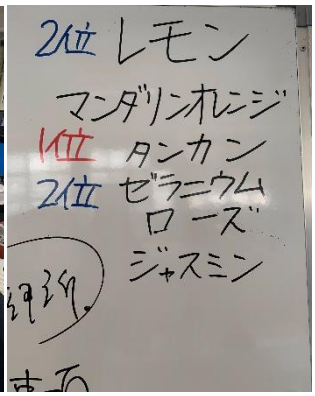
串蜜バーム誕生までのストーリー

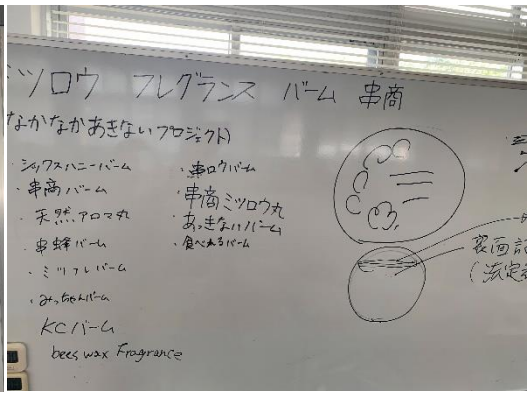
○コロナ禍でストレスが溜まりやすくなっている昨今，癒やしを提供するアイデアを出し合う中で，アロマを使った商品を開発しようということになりました。
○アロマキャンドル・アロマストーン・ディフューザーなどある中で，蜜蝋を使ったアロマ商品開発をするためにボタニカルファクトリーへ体験に行きました。



○学ぶ中で地元産のアロマを知り，蜜蝋バーム作りをすることにしました。
○香りとラベルのアイデアを出し合い，この商品が産まれました。蜂蜜と間違えないようバームをしっかり明記しました。







バームの特徴

○蜜蝋（ミツロウ）は主に，床ワックス，革製品のメンテナンス，ろうそく，クレヨンの材料として使われています。
○成分の中には鹿児島県産のツバキ種子油・タンカン果皮油・蜜蝋を使用。また，蜜蝋（ミツロウ）の成分には保湿性があるので，リップクリームやハンドクリーム，化粧品の材料にも使われています。

串 良 商 業 × botanical factory

串蜜バーム

化粧品表示名称

- ホホバ種子油
- ヒマワリ種子油
- ツバキ種子油
- シア脂
- ミツロウ
- タンカン果皮油
- レモン果皮油
- マンダリンオレンジ油
- ジャスミン油
- ニオイテンジクアオイ油
- ダマスクバラ花油
- バニラ果実油

※赤文字は鹿児島産

1) それぞれの原料を秤量(計る)します。

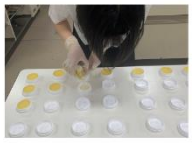
2) 油脂のシアバター、ホホバ油、椿油、ひまわり油を合わせて湯煎し溶かします。

3) 大隅産のミツロウを湯煎し溶かします。

4) それぞれが溶けたら、2)+3)を合わせかき混ぜます。

5) 温度が60度以下になったらブレンドしたアロマオイルを入れて素早くかき混ぜる。

6) 温度が下がると急速に蜜蝋が固まるので、固まる前に容器に入れます。



7) 固まったら再度湯煎して溶かして6) を繰り返します。

8) 充填が終わったら、自然に固まるまで静置します。

9) 容器の蓋に天面シールを貼ります。

10) 容器の底面に両面テープを貼ります。(約1cmにちぎって)

11) 容器の底面に法定表記が記載された台紙を貼ります。

12) シュリンクフィルムにセットして温風機でシュリンクします。

13) 販売名を鹿屋保健所に届け出(ボタニカルファクトリー)して販売開始できます。